



グランドデザイン各シーンの施策概要 ～2035年の日立市の公共交通の将来像～

	取り組み施策	各シーンで実現したいこと	具体的な実現方法
1.	 <p>オンデマンド型の自動運転カー</p>	<p>小学校の統廃合が進み、通学距離が伸びた児童が、安全に無理なく通える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動運転車両を通勤・通学等、朝夕時間帯ではシャトル運用、昼間はオンデマンドで走行。 ・移動データ(用途、利用者、天気等)の AI 分析等により、最適な車両数やルート等を最適化。
2.	 <p>最寄りのモビリティハブまでつなぐ高齢者向け次世代モビリティ</p>	<p>高齢者でも安心安全に自宅からの最寄りの交通結節点まで移動が可能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅から交通結節点までの移動が困難な高齢者等の移動弱者を救うモビリティを整備。 ・一人乗りや乗用車型などに加え、ベンチ型など複数人用モビリティで会話しながら移動可能。

3.	 <p>車両が使いたい場所まで届くデリバリー型カーシェア</p>	<p>自家用車を持たないことにした家族が好きな時にシェアカーを自宅まで呼べる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業者が自宅までシェアカーお届け、利用頻度の低い車両や駐車場等も活用し拠点拡大。 ・完全自動運転時代には、自動配車サービスを実現し自家用車保有から脱却。
4.	 <p>多様な公共交通の経路を検索する統合アプリ</p>	<p>公共交通を利用する方が、簡単にドアtoドアの最適なルートを知ることができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対して、次世代パーソナルモビリティ等の拠点情報を提供するアプリ等を提供。 ・順次、BRT やタクシー、路線バス等の地域内の交通手段の情報を統合し、最適ルート案内。
5.	 <p>自動運転を活用した移動型店舗</p>	<p>忙しく買い物に行けない方が、必要なものを必要な時に購入することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・にぎわい創出に向け特定エリアで、飲食関連の移動型店舗(キッチンカー等)を誘致。 ・将来的に、自動運転化やサービス多様化(薬販売等)を進めることで、地域の物流を改革。
6.	 <p>ハンズフリーの乗降車 & 決済</p>	<p>乗換えを面倒に感じる観光者がハンズフリーで快適・ストレスフリーに移動可能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン等を活用し地域交通のキャッシュレス化を支援、交通事業者のDX化を促進。 ・将来は統合アプリと連携、複数交通手段をまたがる移動でも、最適料金での後払いを実現。
7.	 <p>次世代モビリティと共存するウォークアップル空間</p>	<p>日立駅前が更ににぎわい、老若男女誰もがふらっと出かけ、散歩を楽しめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定エリアでの車両走行制限やパーソナルモビリティの整備を推進、人々の動きやすさを促進。 ・人々が徒歩でもつついお出かけたくなり、周辺の施設や店舗の利用や消費行動を促進。
8.	 <p>既存の公共交通と連携した通勤者向け次世代モビリティ</p>	<p>通勤者が乗換え待ち時間もなくなり、渋滞も緩和され、ストレスなく出勤可能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の公共交通と次世代モビリティとがシームレスに繋がった移動サービスを提供。 ・特に通勤者の公共交通利用を促進することで渋滞緩和に貢献。

<p>9.</p>	 <p>移動サービスを集約したモビリティハブ</p>	<p>誰もがより便利にストレスなく移動でき、ハブを中心に人々の交流が盛んになる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った移動手段で効率的に移動できるよう、交通・移動サービス提供の拠点を集約。 ・更に、その場所自体が人々の交流の場としての役割を果たし、様々なサービスを創出。
<p>10.</p>	 <p>交通ネットワーク／モビリティ管理</p>	<p>モビリティ利用者、歩行者ともに、意識せずに安全に移動することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リアルタイムの交通データや個々のモビリティ情報を収集・分析し、運行管理へと還元。 ・蓄積データと AI 技術の活用により、最適かつ安心安全な交通計画やモビリティ運行を立案。